



残森林資源を活かした排出量削減プロジェクト ～高知の森林から生み出された国内初 オフセット・クレジット～

高知県文化環境部環境共生課 Aiko Tsukamoto
塚本 愛子

1 はじめに

四万十川をはじめとする多くの清流が流れ、南に太平洋を望む自然豊かな高知県は、川や海のイメージが強いが、県土に占める森林面積の割合が84%と全国一の森林率を誇り、魚梁瀬スギに代表される全国有数の森林県である。

しかし、高齢化や過疎化の進展、木材価格の低迷等で、森林整備が進まず、森林の荒廃が深刻な問題になっている。

このため、平成15年度には全国に先駆けて森林環境税を導入し、また、平成17年度からは、環境先進企業との協働の森づくり事業をスタートさせ、森林整備を進めるとともに、雇用の場の確保など中山間地域の活性化につなげるための取り組みを進めてる。

2 森林バイオマスの活用

その一環として、森林に資金を呼び込む仕組みづくりを行い、森林の整備を進めるために、県では、平成19年度から、森林バイオマスを石炭の代替燃料として活用し、それによって得られるCO₂排出削減量をクレジット化する「排出量取引地域モデル事業」に取り組んでいる。

この事業は、本県が(株)住友大阪セメント高知工場に委託し、工場内の発電施設で、石炭の代替燃料として間伐作業時に生産される未利用林地残材を混焼することで排出量を削減するもので、専門委員会（委員長 京都大学大学院准教授 諸富徹氏）の委員として環境省にも参加をいただき、京都議定書に規定するクリーン開発メカニズム（CDM）に準拠した形で制度設計を行った。

この先進性が認められ、平成20年6月16日には、“国内排出削減プロジェクトからのVER認証・管理試行事業”（環境省）に選定され、この削減プロジェクトをモデルとして、カーボン・オフセットの取組みに係る第三者認証、ラベリングのスキームが策定されることとなった。

3 オフセット・クレジット（J-VER）制度申請第一号

11月14日に「オフセット・クレジット（JVER）制度」がスタートし、12月18日に、本県のプロジェクトが、第一号の申請として受理された。

引き続き、第三者機関の検証を受け、平成21年3月10日には、オフセット・クレジット認証運営委員会による審議を受け、国内初のJ-VERが発行された。

なお、今回認証いただいた排出削減量は、2007年度下半期分 899t-co₂、2008年度上半期 1,039t-co₂、となっており、2007年度の削減量全量は、(株)ルミネに売却し、3月16日には、高知県立牧野植物園において契約締結式が行われた。

4 おわりに

この排出量削減プロジェクトがきっかけとなり、県内においてもカーボン・オフセットへの関心が高まっている。

今後は、燃料転換による様々なタイプの排出削減量をもとにクレジットを創出することで、県内に豊富に存在する森林資源を活用し、林業振興や中山間地域の経済活動の活性化に繋げていき、どこよりも早く、森林県高知の特性を活かし、低炭素社会を実現させたいと考えている。